

アフガニスタンの無医村地区に 診療所を開設



ダラエヌール診療所前で診療の順番を待つ現地の人々。診療所は、地域の人々のより所として、厚い信頼が寄せられています。
(写真・ベシャワール会)

内戦により多数の犠牲者と難民を生み出したアフガニスタン。いまだ混乱が続くこの国には、農村部や山岳部を中心に、数多くの無医村地区(医者のない地域)が存在します。こうした地域は、マラリアやコレラといった感染症の多発地帯であることが多く、保健衛生知識の普及の遅れや貧困などが、感染率の伸びに

一層拍車をかけています。

この地域に診療所を開設し、年間約17万人もの人々に対する無料診療を続けているのが、日本の民間海外援助団体(NGO)のひとつである「ベシャワール会」。東部山岳地帯の3つの診療所を拠点に、巡回診療を含む診療活動、現地医師の育成、感染症の予防知識の普及などを展開しています。

約100名の現地スタッフと2名の日本人スタッフが運営する各診療所は、安価な薬を手に入れることさえできなかった人々にとってかけがえのない存在です。

例えばダラエヌール、ダラエビーチの2診療所では、マラリアが爆発的に流行した3年前、2万人近い人々を治療。犠牲者は最小限に食い止められ、住民たちの信頼は一層厚いものになりました。また、標高3000メートルの地に

開設されたワマ診療所も、この地区に多発するハンセン病の治療に大きな成果を上げています。

小さな自家発電機が設けられたワマ以外の診療所にはまだ電気もない状態ですが、ベシャワール会では、今後も徐々に診療所を増やしていく方針。将来的には、20カ所の診療所を開設することを目標に、地域に適した医療を現地の人の手で実現する活動が続けられています。



現地スタッフによる診療風景。マラリアをはじめとする感染症、皮膚疾患、外科など、多岐にわたる診療を実施しています。
(写真・ベシャワール会)